

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第192集

枇杷坂遺跡群

円正坊遺跡Ⅸ

長野県佐久市岩村田円正坊遺跡Ⅸ発掘調査報告書

2011.3

小林建設工業株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第192集

枇杷坂遺跡群

円正坊遺跡Ⅸ

長野県佐久市岩村田円正坊遺跡Ⅸ発掘調査報告書

2011.3

小林建設工業株式会社
佐久市教育委員会

例 言

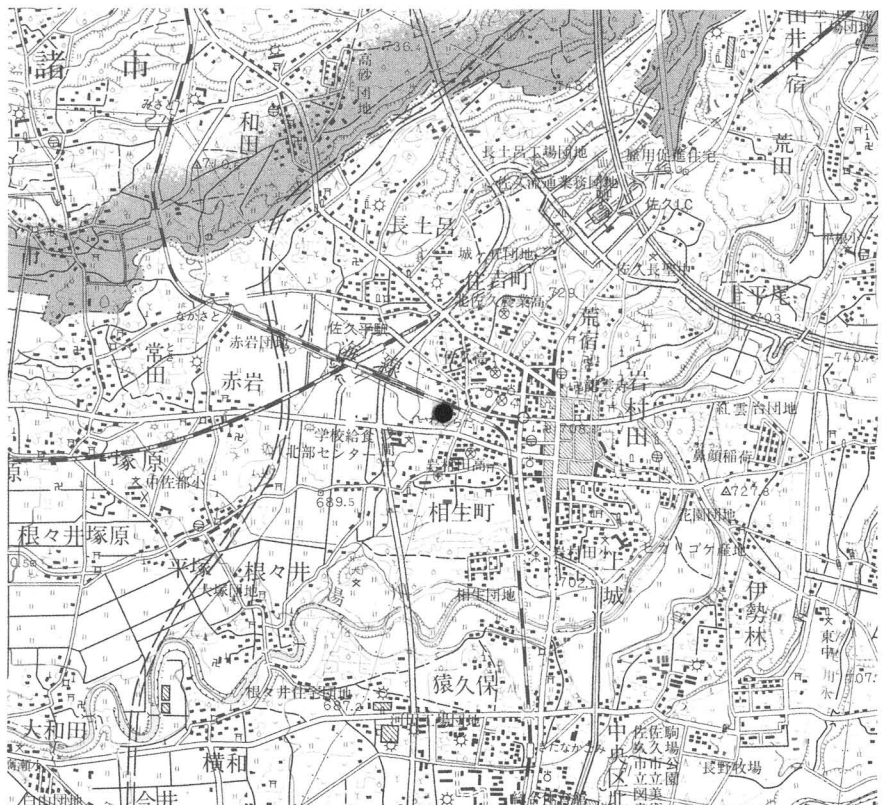
1. 本書は、小林建設工業株式会社が行う社屋新築工事に伴う枇杷坂遺跡群円正坊遺跡区の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 小林建設工業株式会社
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 枇杷坂遺跡群円正坊遺跡区 (I E O 区)
佐久市岩村田字円正坊1296- 1 外
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成22年 9 月17日～平成22年 9 月21日
整理調査 平成23年 2 月 1 日～平成23年 3 月25日
調査面積 30㎡ (開発面積667.61㎡)
6. 調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭。
7. 遺構の実測図作成は赤羽根充江・磯貝律子が、遺物実測図は堺益子・田中ひさ子・柳沢孝子・広瀬利恵子・狩野小百合が担当し、トレースは副島充子が行った。
8. 本書の編集・執筆は、林・佐々木が行った。
9. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址 - H、溝状遺構 - Mである。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。
住居址・溝状遺構 1/80 土坑 1/60 土器 1/4
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色調』に基づいた。
5. 調査区グリットの、間隔は 4 × 4 m に設定した。

目 次

例言・凡例・目次	
第 I 章 発掘調査の経緯	
1. 立地と経過	1
2. 調査体制	1
第 II 章 遺構と遺物	2
写真図版	5
抄 録	



第 1 図 円正坊遺跡区位置図 (1 : 50,000)

第 I 章 発掘調査の経緯

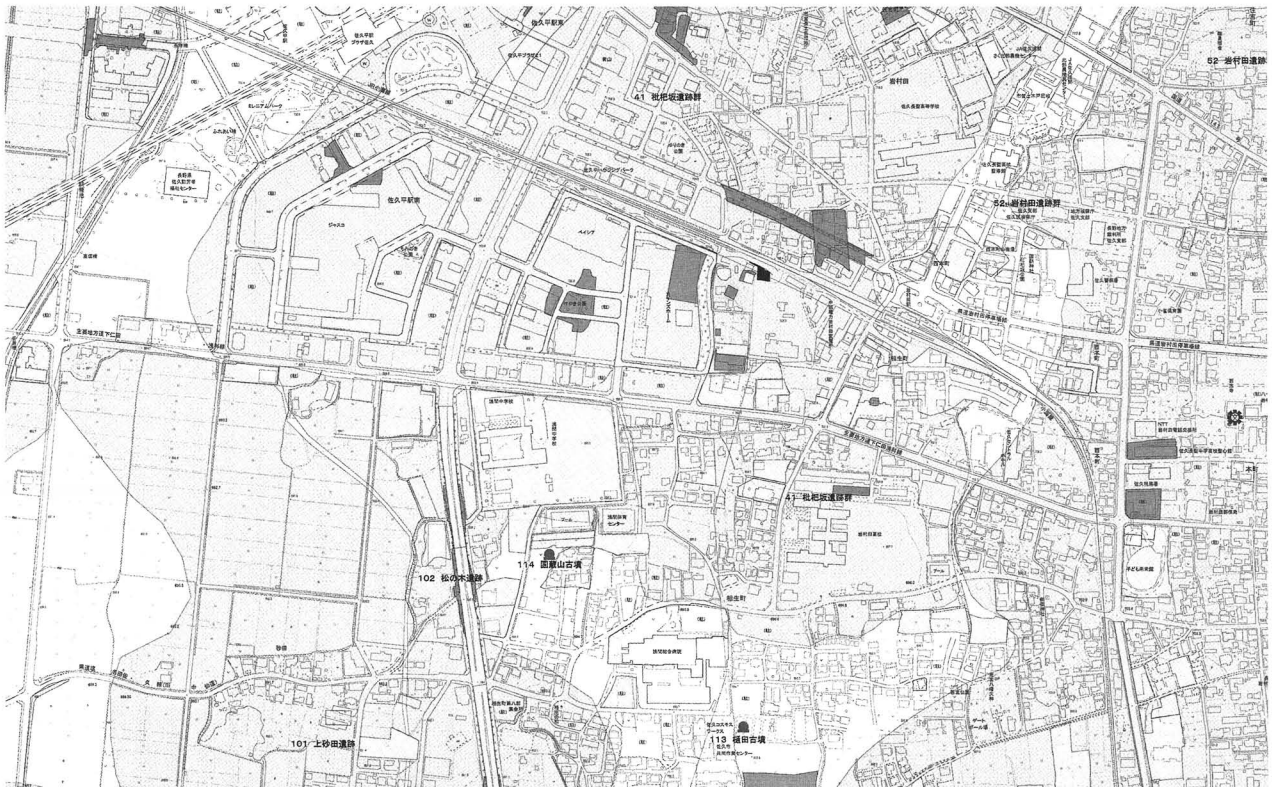
1. 立地と経過

円正坊遺跡区は、枇杷坂遺跡群円正坊遺跡の西端にあり、標高は706mを測る。この付近は、浅間火山の第1軽石流(P1)に覆われ、調査地点の西側から濁川にかけては、低地と低地内に塚原泥流の小残丘がみられる。円正坊遺跡は、都市計画道路・集合住宅・医院建築等の各種開発等に伴い過去において8次の調査で、弥生～中世の遺構・遺物が検出されている。円正坊遺跡区の南側20m離れた地点の円正坊遺跡Ⅷの調査では弥生～平安時代の住居址41軒等が検出された。

今回、小林建設工業株式会社が社屋新築工事を行うことになり、平成22年9月13・14日に現道使用の道路部分は除いた社屋建築範囲の試掘調査を行った。その結果、住居址1棟・溝状遺構等が発見されたため保護協議を行い、社屋建築範囲の調査を実施した。

2. 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	土屋 盛夫						
事務局	社会教育部長	工藤 秀康							
	文化財課長	森角 吉晴							
	文化財係長	三石 宗一							
	文化財調査係	林 幸彦	並木 節子	須藤 隆司	小林 眞寿	羽毛田卓也			
		富沢 一明	上原 学	井出 泰章	出澤 力				
	調査担当者	林 幸彦	佐々木宗昭						
	調査員	赤羽根充江	磯貝 律子	市川 光吉	岩松 茂年	小林 千勝			
		副島 充子	堺 益子	田中ひさ子	中山 清美	柳沢 孝子			



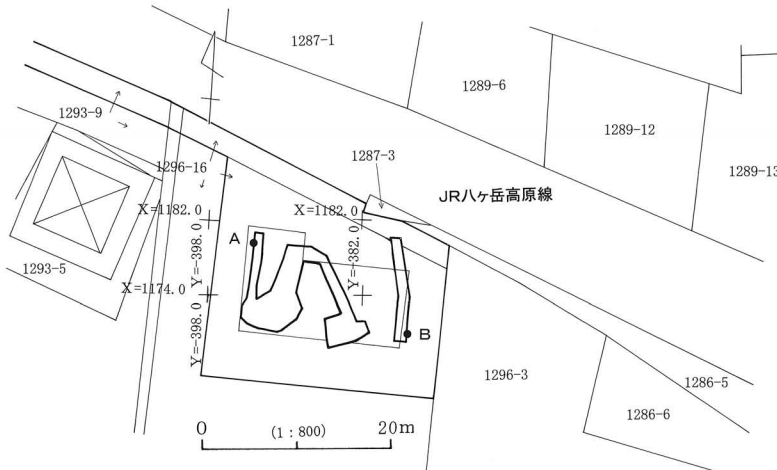
第2図 円正坊遺跡区周辺遺跡位置図 (1 : 10,000)

第Ⅱ章 遺構と遺物

H1号住居址

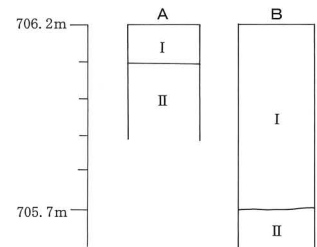
本址は調査区の南西隅から検出され南・西部分は調査区域外に伸びる。M1号溝状遺構に切られる。規模は検出北壁3.6m・検出東壁2.6m、壁高は最深10cmを測り、主軸方位はN-7°-Eを示す。カマドは北壁の中央に粘土と火床前面にある熔結凝灰岩により構築されていたと思われる。厚さ5~15cm、幅20~25cm、長さ40~55cmの熔結凝灰岩3個が放置されていた。ピットは2基検出されたが、位置からP1は支柱穴となるうか。敲击床下・M1下から検出された。P1は径35cm深さ45cm、P2は長径40cm短径32cm深さ38cmを測る。床は堅く敲击締められ平であった。出土遺物には、土師器と石製模造品があり、須恵器は皆無であった。カマド火床付近から多く出土。9~12は坏、須恵器坏蓋模倣の10、浅い丸底から長い口縁部が外反し口縁部と底部の境に稜を有す9などがある。9・10・12は内面黒色処理される。1と2の壺は接合部が断定できず別図にしたが、同一個体である。外面口縁部から底部境まで内面口縁部丁寧へラミガキされる。甕は大型の5小型の3がある。13は2.7cmの小ぶりの片側穿孔される勾玉の滑石製模造品である。

これらの出土遺物は、聖原遺跡の時期区分古墳時代Ⅲ期6世紀中葉~7世紀初頭に比定されよう。

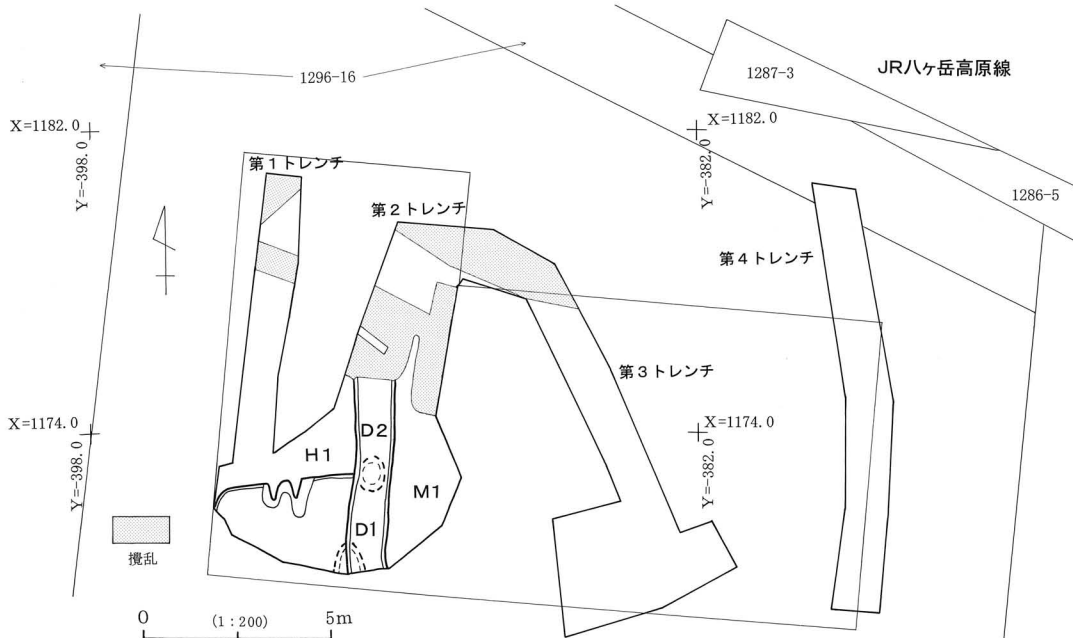


第3図 円正坊遺跡区調査全体図 (1:800)

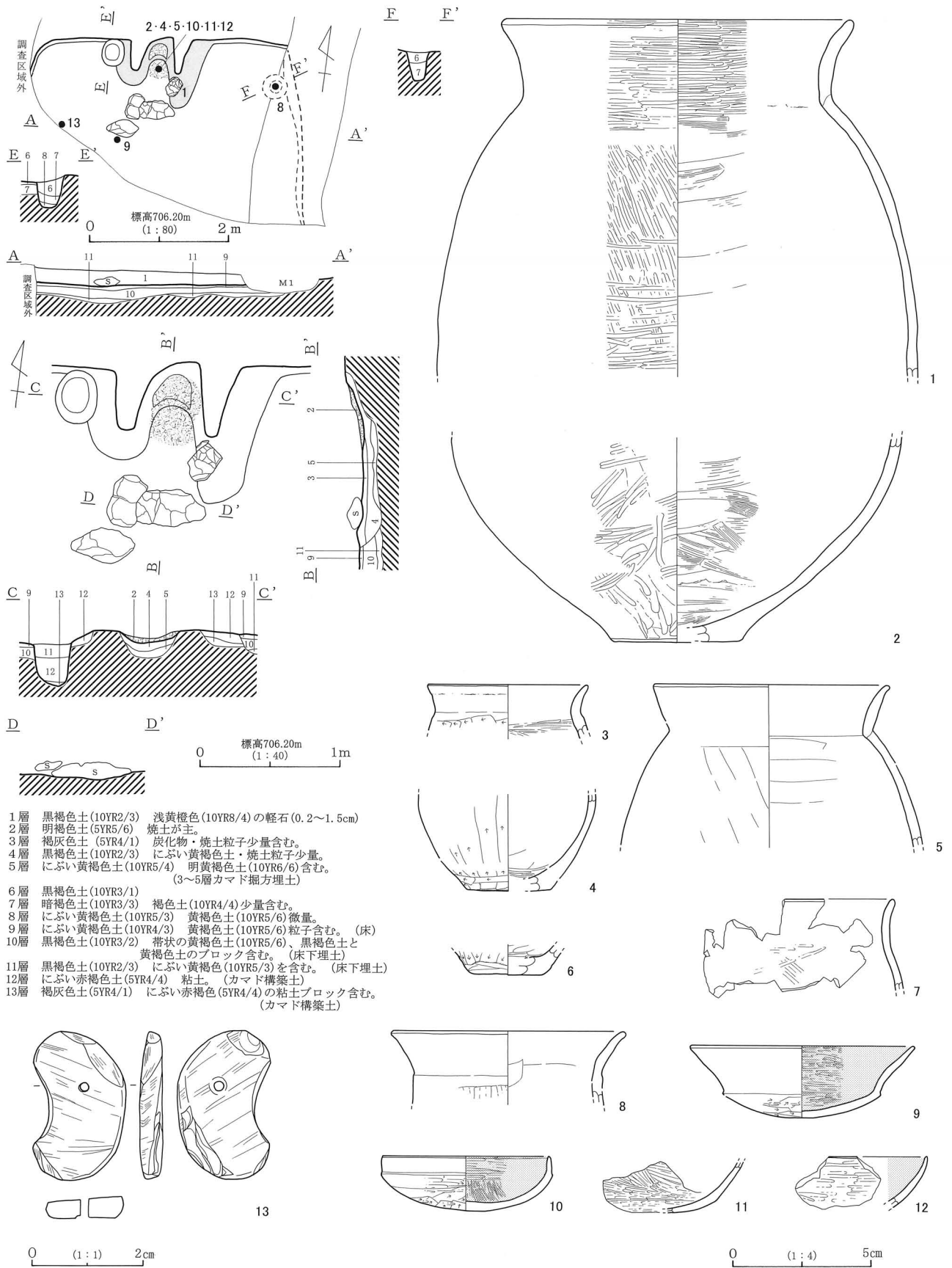
I層 整地層
II層 明褐色土(7.5YR5/6)
浅間第1軽石流(P1)



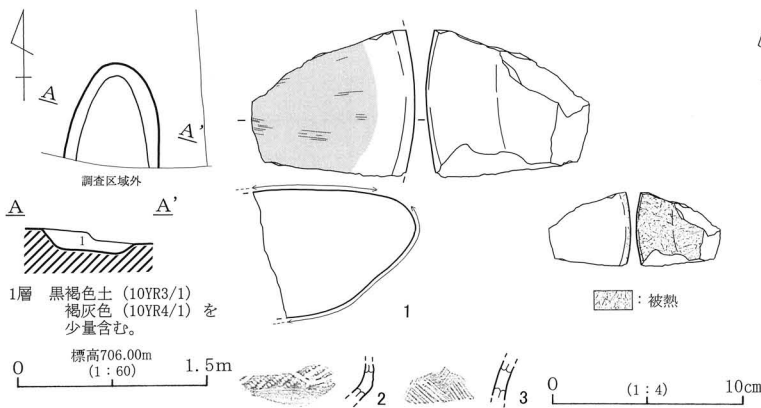
第4図 円正坊遺跡区土層模式図 (1:10)



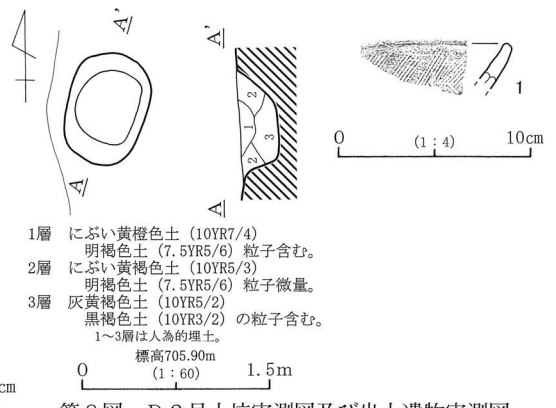
第5図 円正坊遺跡区調査全体図 (1:200)



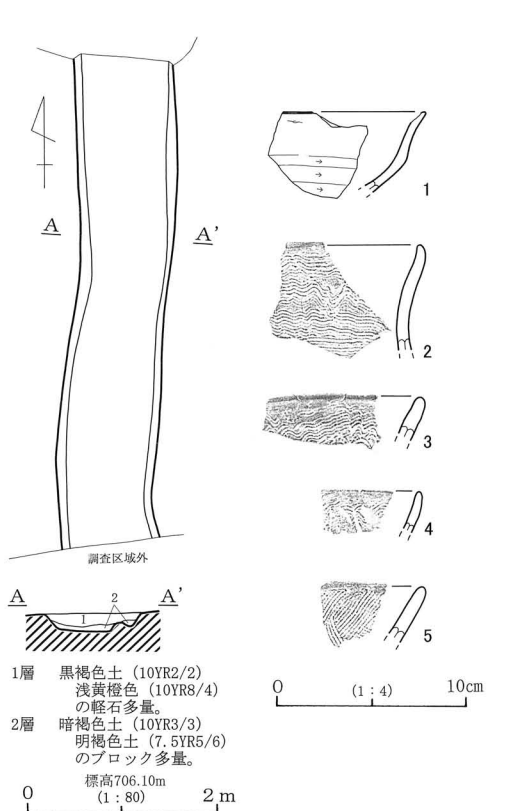
第6図 H1住居址及び出土遺物実測図



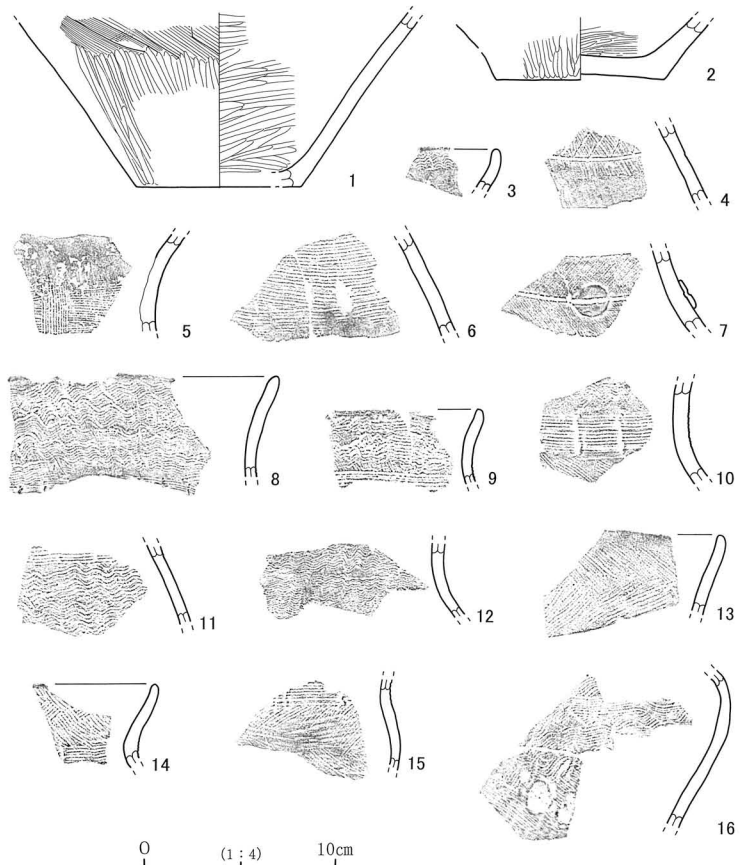
第7図 D1号土坑実測図および出土遺物実測図



第8図 D2号土坑実測図及び出土遺物実測図



第9図 M1号溝状遺構実測図および出土遺物実測図



第10図 遺構外等出土遺物実測図

D1号土坑

本址はH1およびM1より古い。長軸検出部0.8m短軸0.74m深さ20cm、断面逆梯子形。主軸方位Nを指す。台石と弥生壺・甕小片、土師器甕・非ロクロ成形内黒坏片が出土しているが時期は不明、古墳時代後期H1号住居址が下限である。

D2号土坑

本址はM1より古い、H1との重複関係は明瞭でない。長軸0.9m短軸0.64m深さ35cm、楕円形を呈し断面逆梯子形。覆土は、人為的な堆積状況であった。主軸方位N-6°-Eを指す。獣骨(馬?)・弥生壺・甕小片、土師器甕・非ロクロ成形坏が出土しているが時期は不明。



調査区全景 北方より



H1号住居址 全景



H1号住居址 カマド



H1号住居址 カマド掘り方



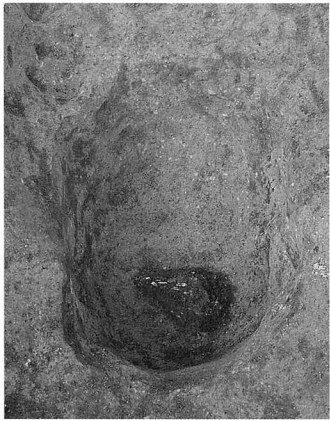
H1号住居址 掘り方



H1号住居址遺物出土状況



D1号土坑



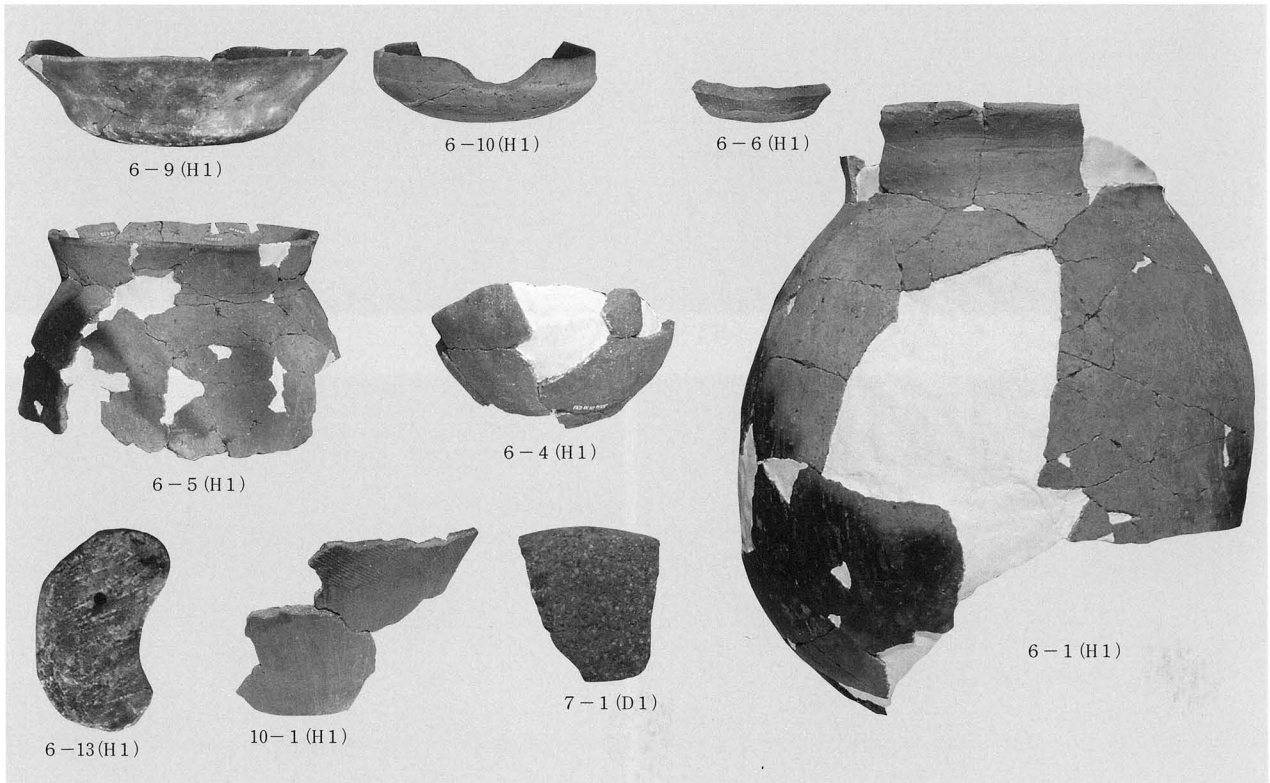
D2号土坑



M1号溝址



M1号溝址
重機による表土削平



H1号住居址・D1号土坑出土遺物

M1号溝状遺構

本址はH1・D1より新しい。検出部長5.12m幅0.94m～1.06m深さ16～24cm、断面は、東側に凸凹が見られるが総じて逆梯形形。南側に伸びており、円正坊遺跡ⅧのM2号に繋がるものと思われる。

遺物は1の須恵器坏蓋模倣土師器坏片や土師器高坏片・甕片、2～5の弥生後期甕・鉢片が出土しているが、時期は不明である。上限はH1号住居址を切っており6世紀中葉～7世紀初頭になる。

第1表 円正坊遺跡区出土遺物一覧表

No.	種別	器種	法 量			成 形 ・ 調 整 ・ 文 様				備 考
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内 面		外 面		
6-1	土師器	壺	(25.3)	—	<25.8>	口縁部ヘラミガキ、 胴部ヘラナデ(柱目)		ヘラミガキ		H1 回転完全実測 2と同一個体 カマド内・脇
6-2	土師器	壺	—	9.4	<14.8>	ヘラナデ(柱目)		胴部ヘラナデ→ヘラミガキ、 底部ヘラミガキ		H1 回転完全実測 1と同一個体 カマド内・脇
6-3	土師器	甕	(11.6)	—	<3.9>	口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラナデ(柱目)		口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ		H1 回転完全実測
6-4	土師器	甕	—	(6.1)	<7.0>	ヘラナデ→ヘラミガキ		ヘラケズリ		H1 回転完全実測 カマド内
6-5	土師器	甕	16.9	—	<11.9>	口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラナデ		口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ		H1 回転完全実測 磨耗 カマド 内
6-6	土師器	甕	—	(5.0)	<2.2>	ヘラナデ		胴部ヘラナデ→底部ヘラナデ		H1 回転完全実測
6-7	土師器	甕	—	—	—	ヘラミガキ		ヘラミガキ		H1 破片実測 外面剥離 磨耗
6-8	土師器	甕	(16.8)	—	<5.3>	口縁部ヨコナデ、 胴部ヘラナデ		口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ(柱 目)		H1 回転完全実測 P1
6-9	土師器	坏	(16.2)	—	5.2	ヘラミガキ→黒色処理		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 後ヘラミガキ		H1 完全実測 外面磨耗 カマド前床面
6-10	土師器	坏	12.1	—	4.0	ヘラミガキ→黒色処理		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 後ヘラミガキ		H1 完全実測 外面摩滅 カマド
6-11	土師器	坏	—	—	—	ヘラミガキ		ヘラミガキ		H1 破片実測 カマド・掘方
6-12	土師器	坏	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理		ヘラミガキ		H1 破片実測 磨耗 カマド
No.	器種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	孔径	重量(g)	所 見	備 考	
6-13	勾玉(石製模造品)	滑石	2.70	1.7	0.4	0.2	2.79		H1 II区床面	
7-1	台石	安山岩	<7.9>	<8.6>	<6.9>		<543.4>	右側～裏面被熱で黒変、正面が使用 面	D1 II区床面	
10-1	弥生	甕	—	(8.6)	<9.2>	ヘラミガキ		柳描斜走文→ヘラミガキ、 底部ヘラミガキ	H1 回転実測 P1・IV区掘方	
10-2	弥生	甕	—	8.8	<3.3>	ヘラミガキ		胴部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	3トレ 完全実測	

—不明、< > 残存値、() 復元値、・丸底を表す。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第192集

枇杷坂遺跡群

円正坊遺跡区

2011年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所

報 告 書 抄 録

書 名	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅸ
ふ り が な	びわざか えんしょうのぼう
シ リ ー ズ 名	佐久 ^{さくし} 市埋蔵文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第192集
編 著 者 名	林 幸彦 佐々木 宗昭
編 集 ・ 発 行 機 関	佐久市教育委員会
発 行 年 月 日	2011.3.25
郵 便 番 号	385-0006
電 話 番 号	0267-68-7321
住 所	^{ながのけんさくししが} 長野県佐久市志賀 5953
遺 跡 名	枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅸ (I E O Ⅸ)
遺 跡 所 在 地	佐久市岩村田字円正坊 1296-1 外
遺 跡 番 号	41
経 度	X = 1174.000
緯 度	Y = -394.000
調 査 期 間	2010. 9. 17 ~ 2010. 9. 21 (現場) 2011. 2. 1 ~ 2011. 3. 25 (整理)
調 査 面 積	30㎡
調 査 原 因	社屋新築工事
種 別	集落跡
主 な 時 代	弥生時代・古墳時代
遺 跡 概 要	遺構 竪穴住居址 1 軒 (古墳) 土坑 2 基 溝状遺構 1 遺物 弥生土器・土師器・勾玉
特 記 事 項	